

祝 辞

理事長 柳谷 孝

本日ここに、卒業ならびに修了を迎えられる皆さん、このたびは誠におめでとうございます。明治大学で研鑽に励まれ、それぞれの課程を修めて学位を取得されたことに対し、深く敬意を表します。また、これまで卒業生を支えてこられたご家族やご列席の皆様にも、心からお慶びを申し上げますとともに、本学へ賜りました多大なるご理解とご支援に対しまして、学校法人明治大学を代表し、厚く御礼を申し上げます。

さて、皆さんがこれから歩む人生は大海原での航海に例えることができるでしょう。航海では、風向きや潮の流れは絶えず変化します。穏やかな日もあれば、時には激しい嵐に遭遇し、これまで経験したことのない海域へ進まなければならないこともあります。そのなかで大切なことは、航海の基本をしっかりと身に付け、変化する風にあわせて的確に帆を操り、航路を修正しながら目的地へと進み続けることです。人生もまた同様に、確かな土台を築いたうえで、変化に柔軟に対応していくことが重要となります。

翻って現代社会に目を向けますと、航海における風と同じように、かつてないほど変化が激しい時代を迎えています。生成AIをはじめとするデジタル技術の急速な普及は、仕事や学び、コミュニケーションのあり方を大きく変えました。また、地政学リスクの高まりや人口構造の変化、気候変動問題などにより、社会そのものも大きな転換期にあります。こうした時代においては、一度身に付けた知識や技術だけで生涯活躍し続けることは困難です。AIをはじめとする新時代の風をしっかりと受け止め、新しい知識を学び続け、変化に応じて自らを成長させていく力が必要です。近年重要視されている「ガバナンス」という言葉がありますが、その語源はギリシャ語で「船の舵を取ること」を意味します。変化の激しい時代だからこそ、組織や私たちの人生においても進むべき方向を見定め、確かな舵取りを行うことが求められているのです。

ただし、新しいものだけを追い求めれば良いというものでもありません。そこで皆さんに、「不易流行」という言葉をご紹介します。「不易」とは、どれほど社会が変わろうとも、変えてはならないものです。一方、「流行」とは、時代の変化を柔軟に受け入れ、新しい価値を学び、取り入れていくことを意味します。自分の中に確かな「不易」がないまま変化だけを追い求めれば、その時々風に流され、進むべき方向を見失ってしまいます。反対に「不易」に固執して変化を拒めば、新しい可能性を切り拓くことはできません。航海に例えるならば、航海の基本が「不易」、風を読んで帆を操る柔軟さが「流行」です。だからこそ、「不易」と「流行」の調和こそが、これからの時代を生き抜くために欠かせないのです。

卒業後の人生の航海におきましても、母校明治大学で培った揺るぎない「個」を礎にしっかりと舵を握り、変化する風に対しても研鑽を重ねながら、力強く航路を切り拓いていただくことを期待しております。そして、国際社会の一員として、国や人種の違いを超えて協調し、人類と地球環境との調和した未来を創造することに、皆さん一人ひとりが貢献し

てほしいと切に願っています。

結びになりますが、本学の在学学生は大学院生も含め現在約3万6千人おり、そのうち奨学金を利用している学生は、延べ約1万6千人に上ります。こうした学費面はもちろんのこと、学内の各種施設整備や体育会各部の活動などについても、校友やご父母をはじめとした多くの方々のご寄付によって支えられております。本日卒業される皆さんも、今後社会でご活躍いただき、その暁には、未来の担い手となる後輩学生達へ手を差し伸べ、寄付という名の紫紺の襷を是非繋いでいってください。明日の明治大学を創るのは、明日の皆さんなのです。

本日の新しい門出に際し、皆さんの前途に幸多きことを心より祈念いたし、祝辞といたします。ご卒業、誠におめでとうございました。

祝 辞

校友会副会長 廣野 宏士

卒業生の皆さん、本日はご卒業、ご修了誠におめでとうございます。

海外留学等、種々の理由から卒業が半年伸びましたが、長い人生の中では半年くらいは全く無視しうる期間です。それよりも頑張って卒業や修了に繋げた皆さんの努力とそこから得られた自信が、今後の人生の大きな糧になります。

校友会を代表し、皆さんを新会員として心から歓迎いたします。

校友会活動の目的は母校を支援し、校友同士の親睦を図ることです。現在、校友会は全国54県単位支部及び韓国と台湾の外国2支部、さらにその傘下に市町村レベルで全国222もの地域支部が組織されています。ぜひとも総会はじめ種々の活動に御参加ください。多くの先輩たちが皆さんの出席を心から歓迎します。また同時に皆さんは明治大学を卒業してよかったと感じると思います。

皆さんは難関の明治大学に入学し、そこで学びそして今後も明治大学卒の看板を背負って生きて行きます。大事なことはこの看板に恥じない生き方をすることです。そしてこの生き方の中にぜひとも「おかげ様」という感謝の心と、「お互いさま」という相手を許すところを加えていただきたいと思います。

本日は誠におめでとうございました。